

○ひたちなか市道路位置指定基準

平成7年1月17日

告示第9号

(目的)

第1条 この基準は、建築基準法（昭和25年法律第201号。以下「法」という。）第42条第1項第5号の規定に基づく道路の位置の指定について、建築基準法施行令（昭和25年政令第338号。以下「令」という。）第144条の4、建築基準法施行規則（昭和25年建設省令第40号）第9条、昭和45年建設省告示第1837号及びひたちなか市建築基準法施行細則（平成7年規則第7号）に定めがあるもののほか、その具体的な基準を定めることにより、良好な市街地の形成を確保することを目的とする。

(接続道路の幅員)

第2条 法第42条第1項第5号の規定に基づき位置を指定する道（以下「指定道路」という。）を接続しようとする道路の幅員は、原則として4メートル以上としなければならない。ただし、法第42条第2項に該当する道路は、この限りでない。

(指定道路の延長)

第3条 指定道路の延長は、道路中心線の長さとし、別図第1によって測るものとする。

(指定道路の幅員)

第4条 指定道路の幅員は、別図第2に示す方法によって測るものとし、最小道路幅員は4メートルとする。

(転回広場)

第5条 令第144条の4第1項第1号に規定する転回広場の間隔は、別図第3の基準によるものとする。ただし、市長が周囲の状況、地形等により避難及び通行の安全上支障がないと認めた場合は、基準を下回らない範囲で基準と異なった形状に変えることができる。

(すみ切り)

第6条 令第144条の4第1項第2号の規定によるすみ切りは、別図第4の（1）から（3）の両側すみ切り又は（4）の屈曲部片側すみ切りを基準とする。ただし、別図第4の（1）から（4）までのすみ切りを設けることができない理由書が提出され、市長が、周囲の状況及び両側すみ切りが物理的に不可能な場合で敷地、用途、規模等からみて交通の安全上支障がないと認めた場合に限り、角地のすみ切りは、別図第4の（5）の片側すみ切りとすることができる。

(指定道路の構造)

第7条 令第144条の4第1項第3号及び第4号の規定による指定道路の構造は別図第5の基準によるものとし、路盤は十分に転圧しなければならない。

2 指定道路に接する道路が舗装されている場合は、その道路との取り合い部は、別図第5の（4）の図によるものとする。

(排水施設)

第8条 令第144条の4第1項第5号の規定による指定道路の排水施設は、周囲の状況、地形、降雨量その他の諸事情を勘案して、別図第5の基準以上のものによるものとし、いっ水、滞水及び漏水のおそれのないよう設置しなければならない。

2 前項の排水施設の放流先は、原則として公共の排水路又はこれに準ずる施設に接続するものとする。ただし、放流することが困難な場合には、別図第5の(5)による道路の面積70平方メートル当たり1立方メートル以上の雨水を貯留できる浸透枳により処理することができる。

(防護施設等)

第9条 指定道路が、がけ地等に隣接する場合又は市長が通行の安全を確保するために必要があると認めた場合は、ガードレール、フェンス等の防護施設及びカーブミラー、街灯等の安全施設を設置するものとする。

2 市長は、指定道路ががけ地等に隣接し、かつ、著しく危険であると認めた場合は、当該道路の位置の指定をしないことができる。

(宅地計画)

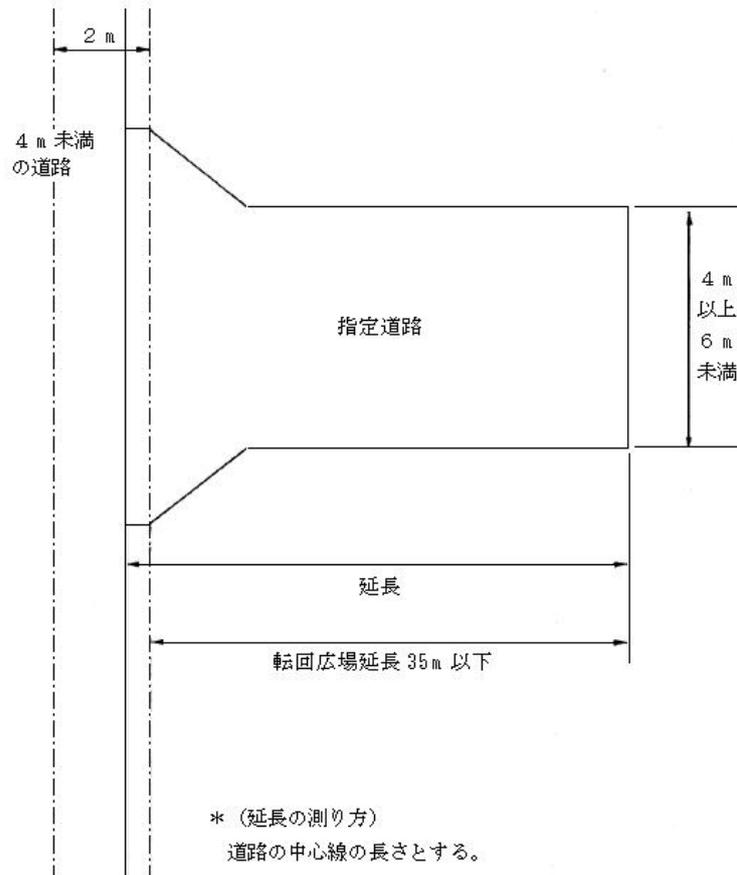
第10条 戸建住宅用地の一宅地は、過少とならないように配慮するものとする。

付 則

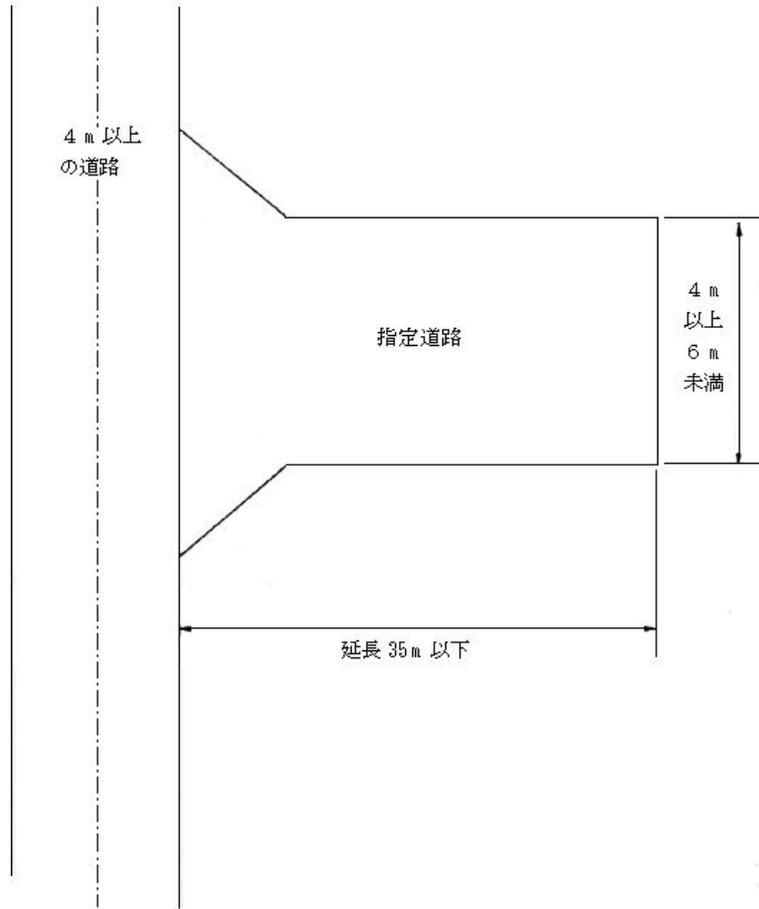
この告示は、特定行政庁を設置した日から施行する。

別図第1 (第3条関係)

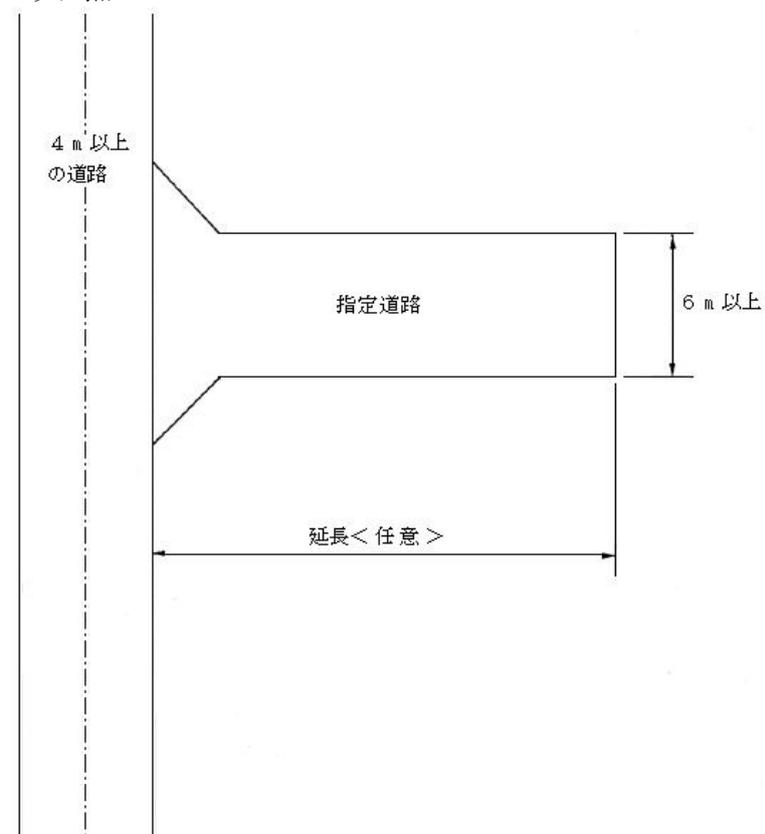
(1) <セットバック有>



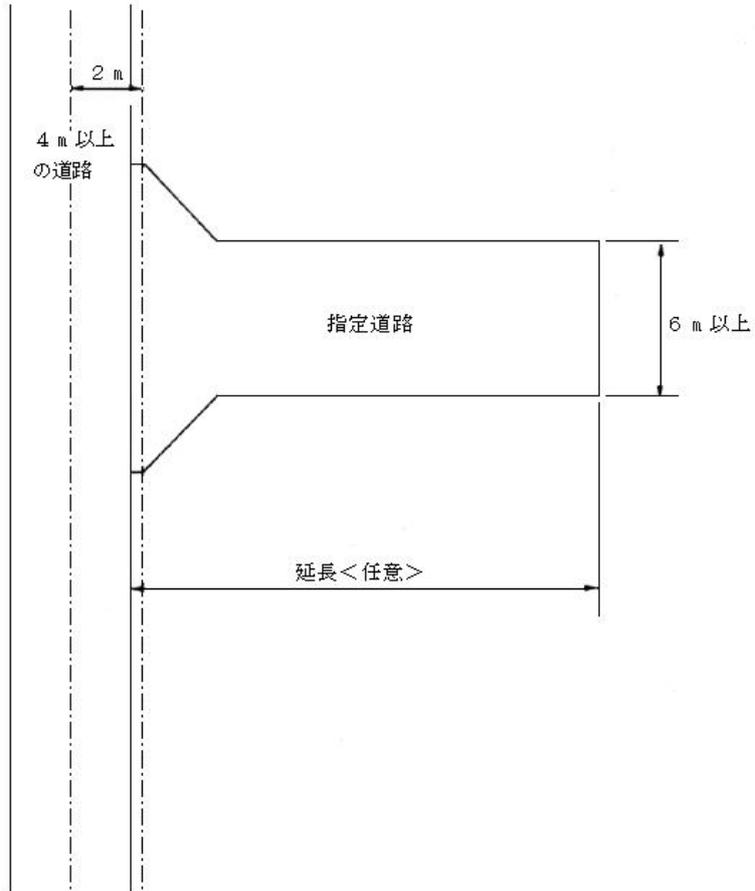
(2) <セットバック無>



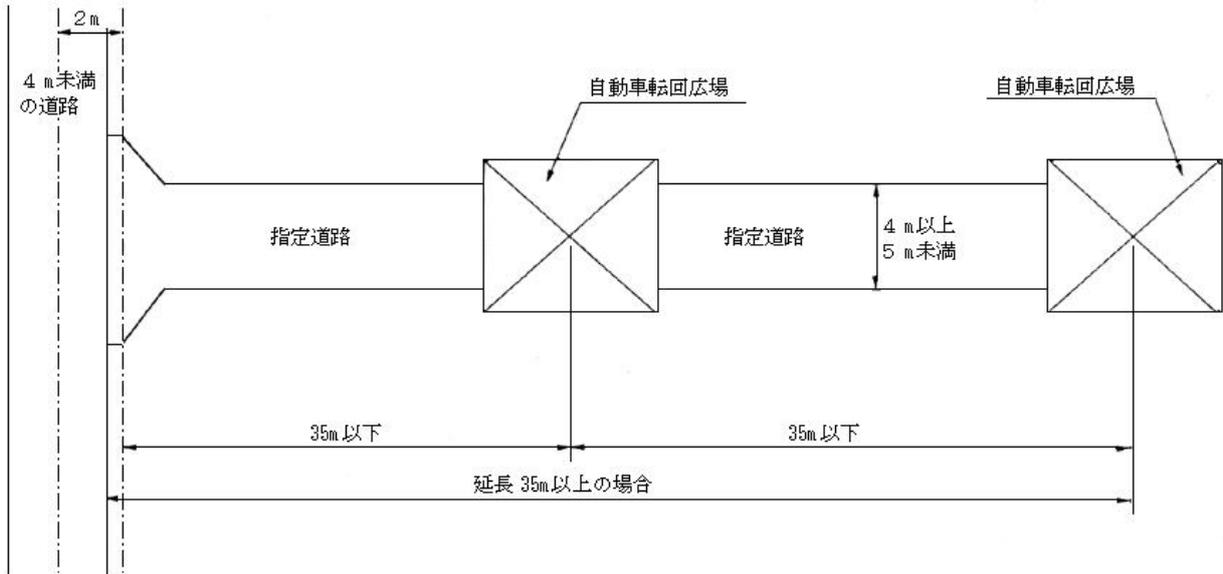
(3) <セットバック無>



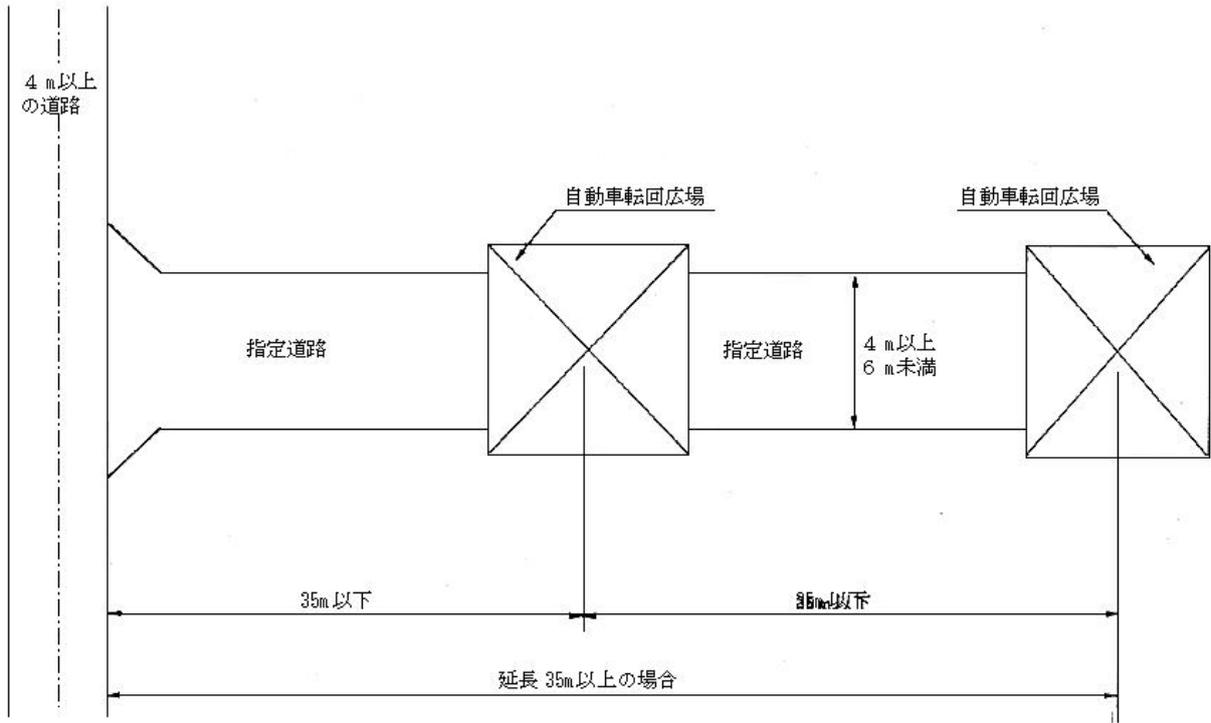
(4) <セットバック有>



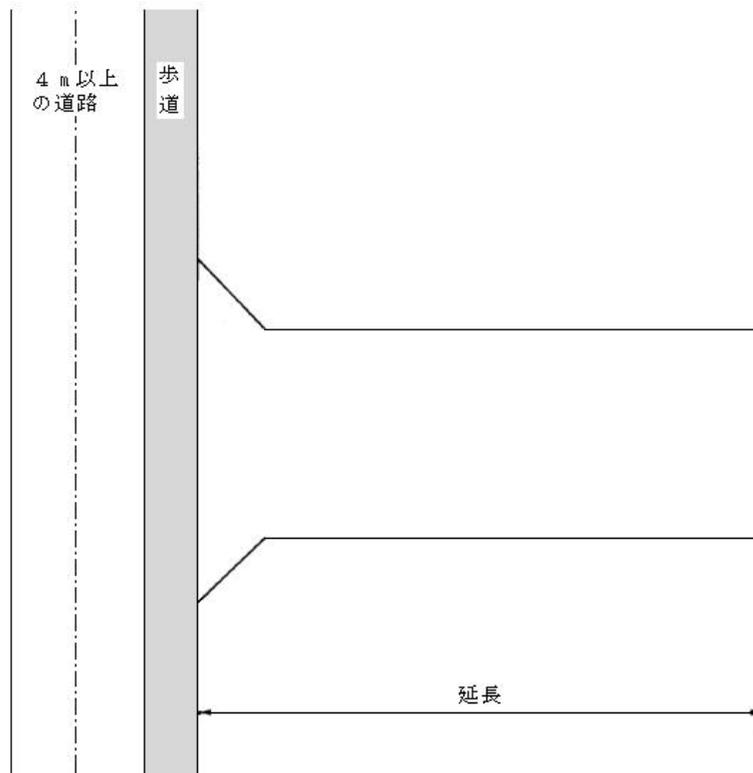
(5) <セットバック有>



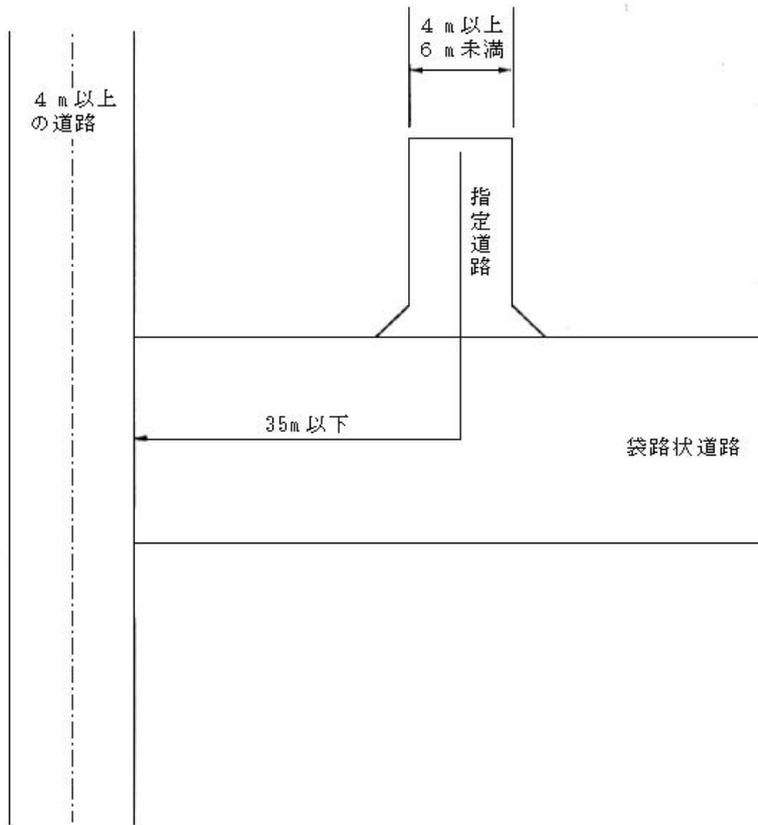
(6) <セットバック無>



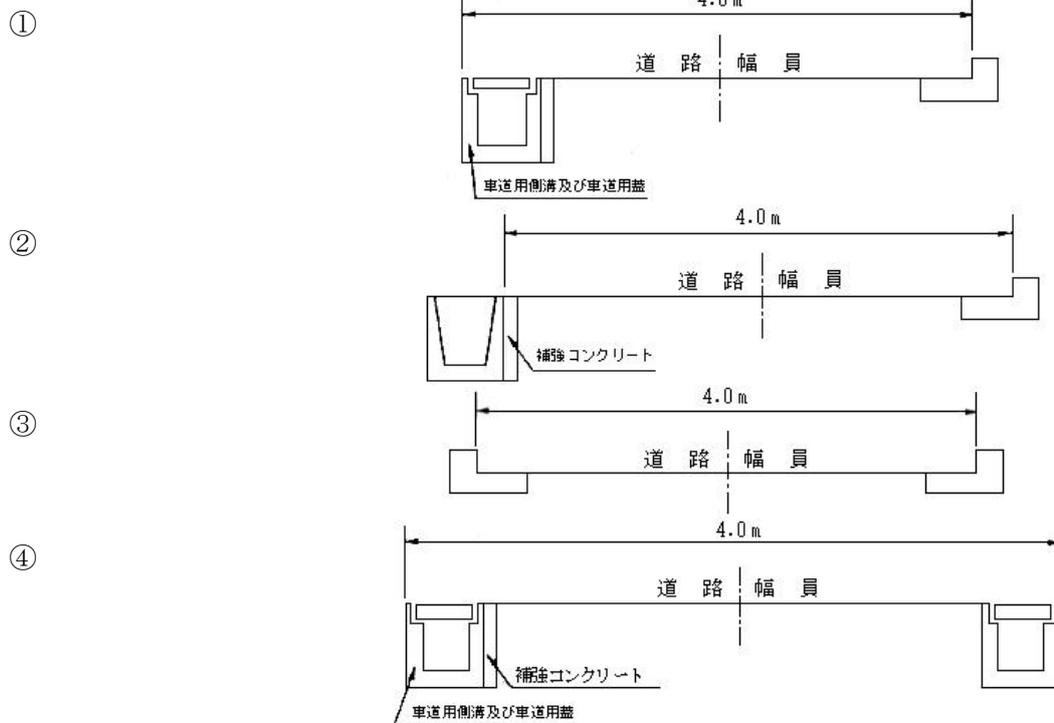
(7) (歩道のある場合のすみ切り)



(8)



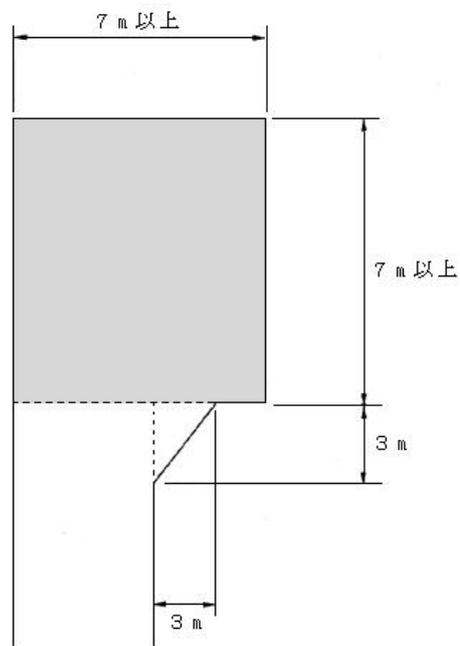
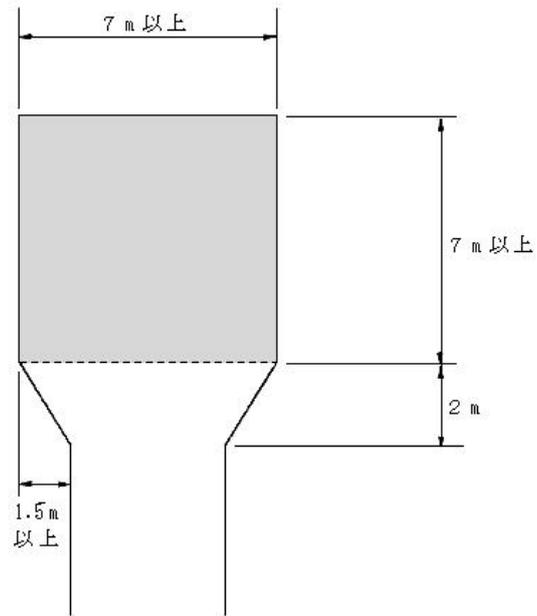
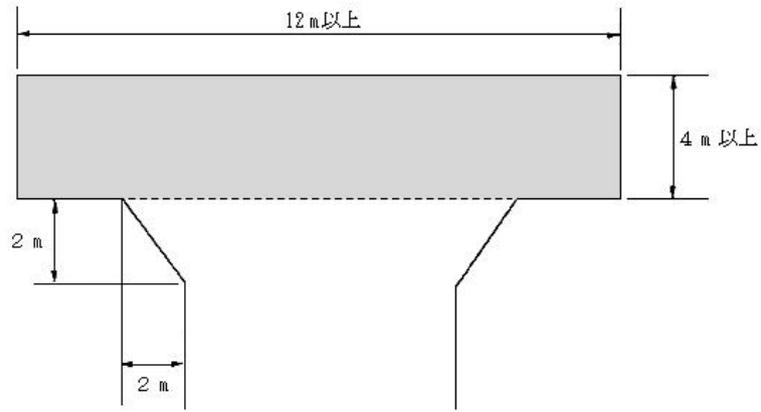
別図第2 指定道路の幅員 (第4条関係)



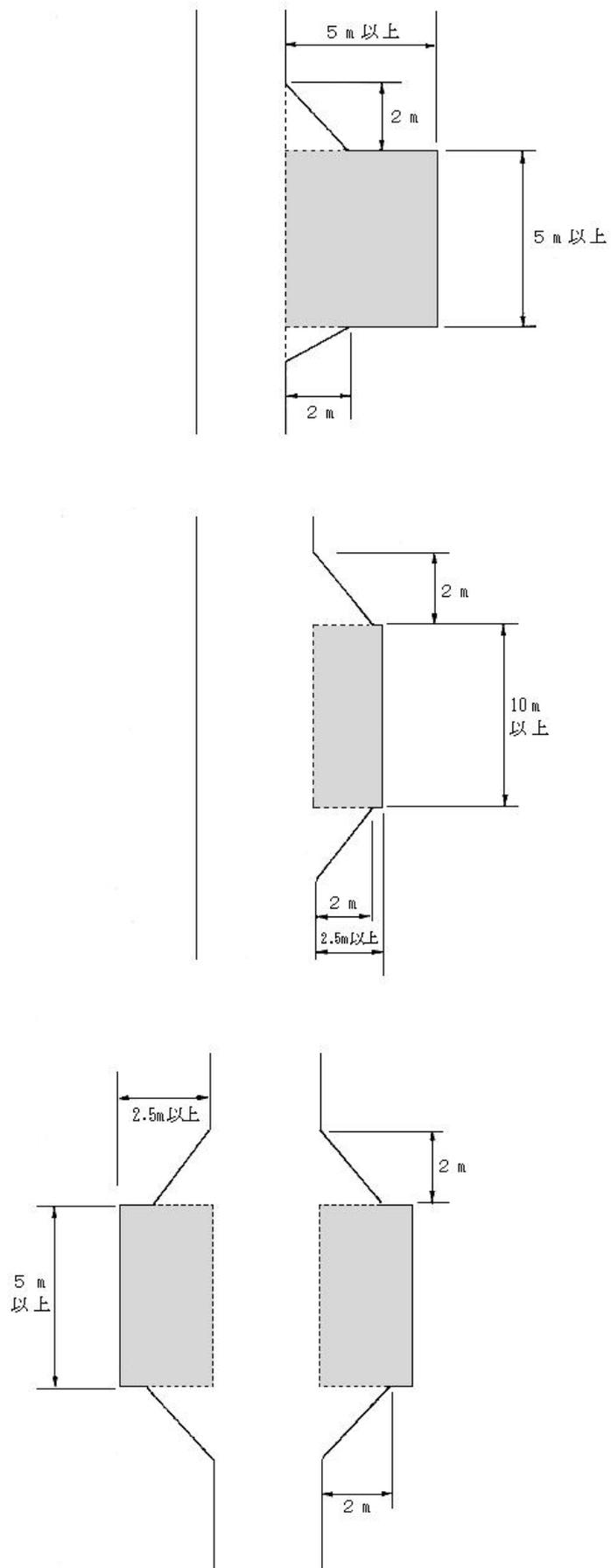
* (幅員の測り方)
道路の中心線に直角に測る。

別図第3 転回広場 (第5条関係)

(1) 終端

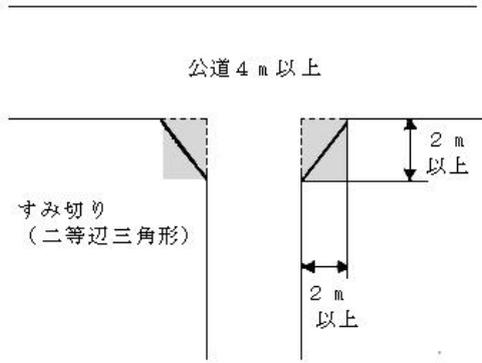


(2) 中間

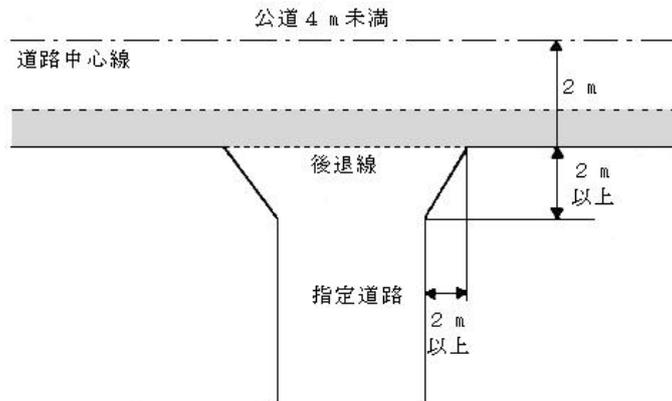


別図第4 (第6条関係)

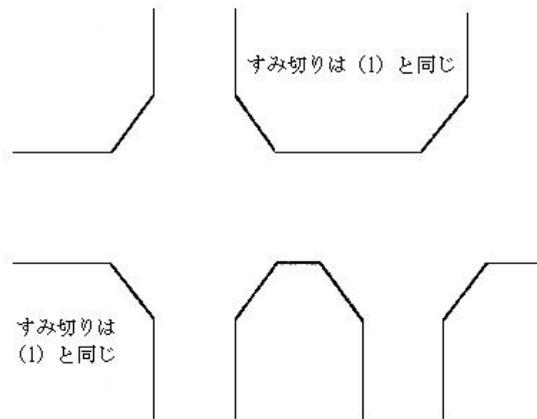
(1) 両側すみ切り (公道4m以上)



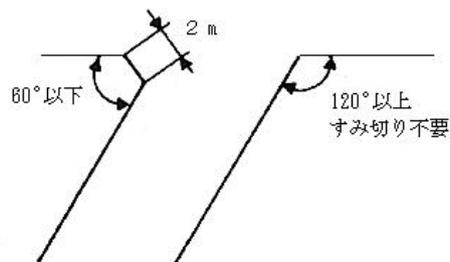
(2) 両側すみ切り (公道 4 m 未満)



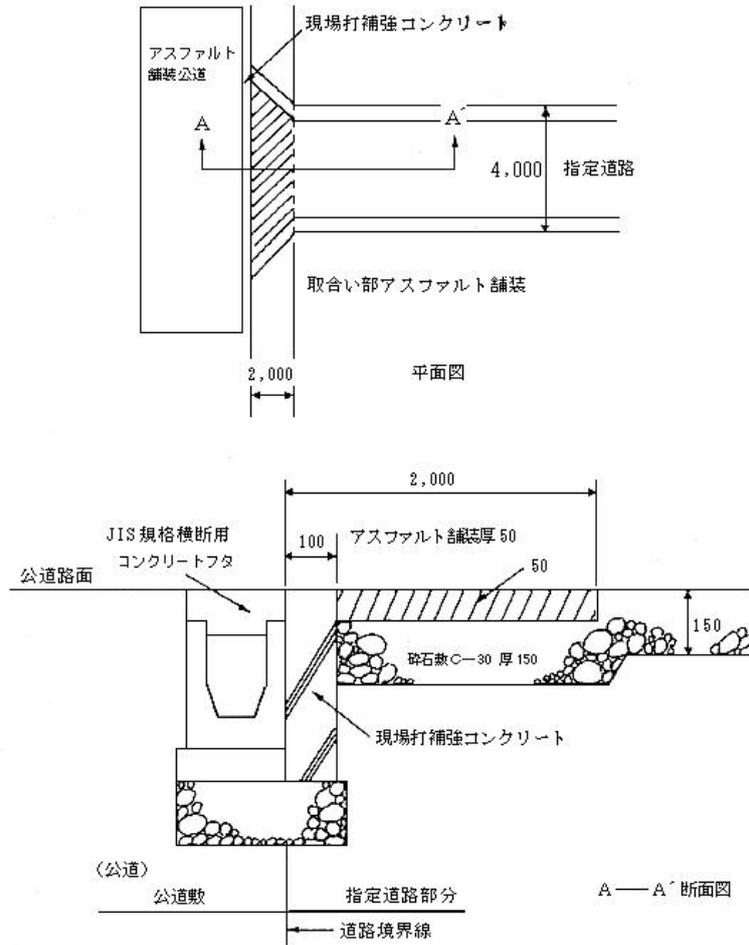
(3) 接続部



(4) 片側すみ切り (屈曲部)

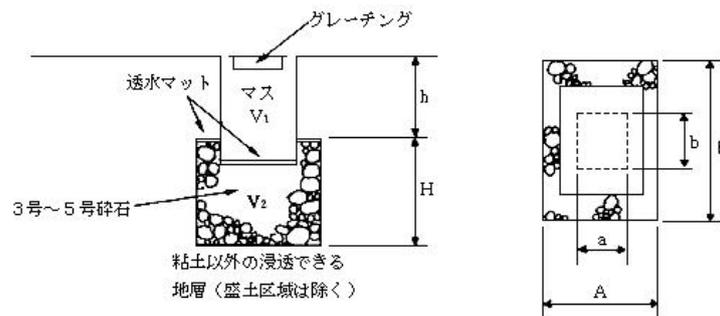


(5) 片側すみ切り (交差部)



(5) 浸透柵設計例

標準図 (例)



$$\Sigma V = (V_1 + V_2) + () + () \dots \geq 1 / 70 \times S$$

$$V_1 = a \times b \times h \quad (\text{m}^3)$$

$$V_2 = A \times B \times H \times K \quad (\text{m}^3)$$

K: 砕石の空隙率 0.25

S: 道路の面積 (m^2)

V: 貯留量 (m^3)

<参考>

$$V = A \times f \times r$$

V: 貯留量 (m^3)

A: 排水面積 (m^2)

f : 流出係数 0.5

r : 降水量 30 mm/日